

# 秋田の風

日銀秋田支店長コラム

秋田で楽しみにしていることの一つに、釣りがある。料理も趣味なので、釣りで得られる喜びは人一倍ということになる。今回はそんな筆者が魚をテーマにするため、多少割り引いて読んでいただきたい。

というわけで、秋田の海に何度か釣行したが、毎回感動している。まず、釣れる。しかも魚の種類が豊富で、他の海域では簡単にはお目にかかれないような高級魚に出合う確率も高い。

そして、筆者が以前よく釣りをしていた東京湾入り口の海域では、季節になると客を満載にした釣り船が殺到し、数十の船がひしめき合う。このため、潮の流れが速かったりすると別の船の釣り客と系が絡むありさま

## 秋田の魚

だった。秋田ではそんなことは全くなく、先日、男鹿半島沖で大カサゴを釣った際には、見渡す限りの美しい海原に、釣り船は3隻ほどしか浮かんでいなかった。漁礁になり始めている洋上の風車近くでも、特に場所を争うことなく、見事なタイを上げることができた。

個人的な感想だが、この海域の魚は、ほどよい潮の流れや海

県内で釣りビジネスをされている方から、「釣りで秋田はもつと活性化する」といった話を聞いたことがある。他県では、釣りを地域の観光資源として積極的に活用しているところがあり、京都の丹後半島もその一つだ。ある研究機関によれば、その海域での遊漁による経済効果は年間38億円に上り、更に、釣り客がその消費額を上回って感

活魚運搬車があまり利用されない理由があるのかもしれない。魚は、締め方や保存の仕方でおいしさが大きく変わるため、必ずしも活魚でなくても良いとは思っている。しかし、県外や海外から訪れる人の期待という視点では、どうだろうか。秋田を訪れる多くの人が、地の魚に心から感動し、何度もリピートしてもらえよう、今後も関係者が協

素などに変える技術も進むだろう。その風車が並ぶ海域で、100%クリーンエネルギーにより魚を取り、加工し、県外や海外にその付加価値も含めて魚を売り込むことはできないか。漁獲量が少ないが、魚種が豊富で高級魚が多い秋田の特性を踏まえ、活魚で出荷することも選択肢だ。また、100%クリーンエネルギーによる養殖ができれば、出荷の安定も見込める。それまでに、秋田の魚の上品なおいしさが広く知れ渡っていれば、ビジネスの可能性もより広がるだろう。

## 地域活性化の資源に

藻のおかげなのか、同じタイやヒラメ、アジでも、これまでに釣行した他の海域と比べて、上品なおいしがあるように思う。

じる価値（経済的価値）は年間100億円を優に超えると推定している。ちなみに、秋田の海面漁業による生産額は、近年30億円に届かない。

力して工夫していくことが大切になる。その結果として、魚も価値に見合った価格で売れることが期待される。

これからしばらく釣りに良い季節が続く。県民の皆さまも太公望となつて、秋田の魚の将来に思いを巡らせてみてはいかがだろうか。ただ、釣れるため、のんびりとはいかないかもしれない。



話を魚に戻す。県内の観光関係者から、「秋田には魚を生かしたまま運べる車がない」と聞いたことがある。正直驚いた。全くないこともないとは思いますが、秋田では魚が高く売れないなど、

更に、秋田の魚について、将来に向けて想像を膨らませてみると、新たな可能性も見えてくる。将来、秋田沖には多くの風車が立ち並び、風力発電による電力の量産体制が整うことになり、発電で得たエネルギーを水

（片桐大地・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉